

Dialog-S



島中 秀幸
スタジオ・シンフォニカ前



土田 晃嘉
藝ルーツオブライフ

×

- ・建設地 札幌市西区平和
- ・設計期間 2009年11月～2010年10月
- ・工期 2010年10月～2011年6月
- ・敷地面積 352.91㎡
- ・建築面積 174.96㎡
- ・延床面積 297.36㎡
- ・構造規模 1階RC造 2階木造
- ・外部仕上 1階部 コンクリート打放し
2階部 木下見板張
- ・内部仕上 1階部 コンクリート打放し
2階部 構造用合板現し
- ・施工会社 分離発注方式

本建築は、施主であると同時に本人も建築家である土田が、結婚と親世帯との同居、家族での起業をきっかけに建てることになったオフィス付の二世帯住宅の設計を、島中に依頼したことから始まりました。

島中：自邸は自分の作品にもなるのだから、自分で設計すれば良いのにと、依頼には正直びっくりしました。

土田：いわゆるセカンド・オピニオンが欲しかったのではなく、二人の対話を通じて忖意性や独善的な意味での作家性を削ぎ落としていきたくかったので。

島中：今思い出せば、間主体性の中に共通の思いを見つけることが出来たときは嬉しかった。施主はプロデューサーもしくは作曲家であって、建築家はディレクターまたは指揮者であるという位置付けを一旦明確化した上で、責任を押し付け合うのではなく責任を取り合う関係が心地よかったです。音楽的な関係というか・・・

土田：場所に対する愛着からの現地立替、土量の場内バランスや太陽光発電の設置、分離発注方式の採用などの副主題が、最終的には世代間の適切な距離感というテーマに結びついたのは二人の対話があったからです。

島中：シンメトリの構成によって出来た通り庭で、世代間の様々なアクティビティが生まれている事を嬉しいと思います。今後は、その中心にあるオフィスをインターフェイスとして、笑顔と対話が絶えない土田家の良好な関係が社会に広がっていくことを望んでいます。

土田：施工の最終段階で島中さんが病に倒れたときは大変なことになったと思いましたが、こうしてまたお話が出来て本当に良かったです。無理しないでくださいね。

島中：僕が倒れてからは、土田さんがディレクターの役割も果たしてくれたので、安心してリハビリ出来ました。やっぱり、共作にして良かったです（笑）

